



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyokai.com

http://yuaiyokai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

国際交流事業 既植林地を訪ねて

友愛植林地視察訪中報告

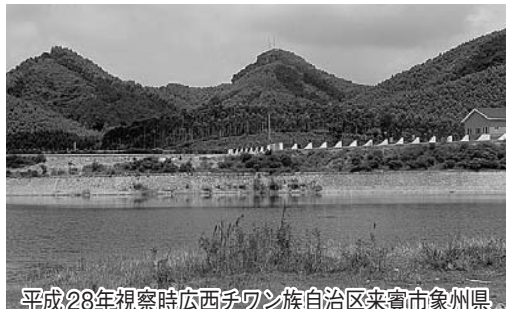
自然が創り出す力に感動 乾燥土の山肌はすべて緑に
豊かな山が豊かな村を作る 人々の心にも友愛の気持ち
特別附録にて違いを比較紹介 友愛の石碑はいつまでも

平成二十八年七月六日(水)から十六日(土)の十一日間、国際交流事業の一環として「友愛既植林地視察訪中団」が派遣された。これは平成二十二年より実施している「中国における植林活動」の経過を観察し、地域の方々との交流を深める為に行われるもので、今回が三度目となる。植林実施後十年以上を経過している地域や六年連続して担当した湖北省シキ県などを訪れる予定だったが、武漢空港が洪水で使えないなどの状況から、広西チワン族自治区及び福建省アモイ市の二カ所の現場を訪問した。訪問先では中国語版の「私にとって友愛とは」を配布し活発な交流活動を行うことができた。広西チワン族自治区来賓市象州県では、木々の保水力が自然のダム(池)を作り、近隣の農業に収穫高を上げるという効果をもたらした現実を目の当たりにした。結果、植林に反対していた村民が、積極的に植林活動を行い、村は緑豊かで生活も豊かな村になっていた。二度目の視察訪中でも訪れた柳州鹿寨県では、ユーカーリ的一种按樹が更に大きく育ち、記念碑を覆い尽くしていた。見渡す限り乾いた土だったアモイ市同安区の現場も、三六〇度緑に覆われ、見違えばかりだった。今号では、その緑に覆われた様子をご覧いただきたく特別附録を付した。植林当時と視察時の違いを見比べて欲しい。

分け入っても分け入っても青い山

日本友愛協会常務理事 川手正一郎

植林が村を変えた
第三次植林地視察で植林
に対する私の考えは大きく
変りました
行動する友愛とは：
友愛青年同志会に入会し
て間もなく、友愛を行動化
するにはどうしたら良いの
か執行部で討議を重ねまし
たが、予算もなく全て手詰
まりの状態でした。しかし
動かぬことには何も具体化
できず、初年度は機関紙友
愛を都内の繁華街で精力的
に配布しました。また、全
国的な組織団体とすべく、
鳩山派の代議士に働きか
け、会員獲得運動を積極的
に行った結果、翌年には第
一回全国大会が開催できま
した。
二年目に入り、組織化と
合せて友愛移動文化映画
班、三年目に映画に加えて
歯科診療を行ったこと等か
ら、友愛の具現化が僅なが
ら緒についたように思いま
す。
今考えますと友愛運動の
原点は、創立二年目位から
のように思いますが、入会
以来、私の脳裏に何時も去
来するのは、行動する友愛
でした。そして今でもその
信念に変わりありません。
来て、見て、聞いて：視察
の醍醐味を満喫
しかし、この度の植林地
視察で植林が地域の友愛化
に大きく貢献している事例
を目撃し、目から鱗の感慨
を覚えた次第です。それは
七月十一日広西チワン族自



平成28年視察時広西チワン族自治区来賓市象州県



平成15年広西チワン族自治区来賓市象州県

うに説明してくれました。
①植林事業を推進する為
には農家の諒解と協力が必
要であり、その為付近の農
家を説得するのに一ヶ月も
かかってしまった。しかし
植林を実施したところ、近
くの農家も植林の良さがわ
かり、植林に協力するよう
になり、友愛の植林現場の
近くから、次々に植林が広
がり付近一帯緑の森となっ
た。
②近くの山々の緑化が進
み、水が湧き、いくつかの
山の手前にダム(貯水池)が出来
て緑が深くなった。結果この記念
碑のところまでは行き着けなかつた
③ダムの完成により、ダ
ムの下流に田や畑が耕さ
れ、米や野菜、砂糖キビ、
そして養鶏や養豚まで盛ん
になり、農家は金に恵ま
れ、次々に家を建て替える
ようになった。
④農家の環境は大きく変
り、年収一〇万円を超す農
家も現れ、村全体経済的に
豊かになり、今では協力や
助け合いが日常的となり、
新しい価値観が生まれ、村
の雰囲気も和やかで全く変
ってしまった。村の人たち
は最初に植林した友愛の皆
さんに感謝している。
植林は友愛の未来を拓く
王さんの説明を聞いて、
村が友愛化しているような
感じになりました。
広い中国、友愛の最初の
植林は二〇〇ヘクタール三
十三万本の「ハチドリ」のひ
と滴でした。しかし、多
くの人の理解と協力によ
り、次から次へと植林が行
われ、緑の山々が誕生した
経緯を考えますと、友愛に
とって植林は日中友好の確
実な一歩です。
王さんの献身的な努力
で、村人の植林に対する価
値観の変化を知り、ダムの
向こうの緑の山々が神々し
く、思わず両手を合わせま
した。そして、植林は友愛の
未来を拓くと確信しました。
植林とは心に緑を育むこと
今回の象州県の視察は、
私の十六年間の植林事業の
中で最も幸せな視察であ
り、生きていて良かったと
心から感謝した視察でもあ



平成28年視察時広西チワン族自治区柳州市鹿寨県



平成28年視察時広西チワン族自治区柳州市鹿寨県

友愛時評
▼今年の就職活動は、過去
最高の売り手市場だとい
う。経団連が会員企業に対
して選考解禁時期を4月か
ら8月に大幅に後ろ倒しし
て大混乱した昨年の経験も
あり、6月に選考解禁が早
まった今年は各企業とも
淡々と選考活動を進めてい
るようにも見える。解禁
早々に内定を得た学生が、
さらに他の業種や公務員試
験受験でステップアップを
目指すのが常態となつて久
しいこともあり、企業側で
も内定学生の「歩留まり率」
の読みが正確になつてい
るらしい。▼周囲にいる学
生の就職が決まると大学教員
は安心である。失業率が
上昇すると犯罪率や自殺率
も確かだが、その要因とし
ては経済的困窮以上に、失
業者が受ける「自分は社会
から必要とされていない」
という疎外感が大きいよう
に思う。就活がうまくいか
ないと日に日に学生の顔が
変わってくる。何とか進路
が決まればパーッと明るく
戻るし、決まらなければ悪
循環に陥る。▼「グローバル
人材」育成をテーマとし
た調査を手掛けていること
もあり、筆者自身も経済界
や各企業が求める人材や社
内育成システムの実際など
を聞きに回っている。その
際に「就職四季報」や学生
側の口コミ企業情報も参考
にするのだが、今の就活は
大変だなあ、というのが実
感である。自己アピールの
実績づくりにも熱心な学生
を見ると立派なものだと感
心すら覚える。▼人工知能
の発達によりホワイトカラ
ーの職種が多くがいつれ代
替されるという予想が出て
いる。今年の学生が社会の
中堅を担う一〇年後、二〇
年後の職場はどんな状況な
のだろう、その頃に役立つ
教育とは――そんなことも
思いながら学生と日々接し
ている。(ヒゲ)



平成23年 アモイ市同安区(2期)

植えたときは直径二センチほどの苗だった。歳月が木々を育て、山を緑に変えた



平成28年視察時アモイ市同安区

全山緑に覆われた現場。左奥に記念碑が見える。分け入っても：の心境になる



平成19年 アモイ市翔安区

植林実施当時の現場。ダム（貯水池）も水が少なく、山は地肌が現れている



平成28年視察時アモイ市翔安区

水を湛えた貯水池と緑に覆われた植林現場。現場に立つと、空気が違うと感じられる



平成19年 アモイ市同安区(2期)

植林当時の記念碑。周りの景色も赤茶けた土が多い。十年後の右の写真の姿は想像もつかなかった



平成28年視察時アモイ市同安区(2期)

苔むして文字の朱も薄くなった記念碑。それでも道路脇にあるため、ハッキリと見ることができる

再訪した昆明、柳州、厦門の街は周囲の岩山や川の流に昔の面影は残しているものの、まったく別の国の街にきたようだ。街中は、道路が広がり、舗装され、高層ビル、高級マンションが立ち並び、ショッピングセンターには有名ブランドの各店、三々四階には各種のレストランが入っていて客が大勢入っている風景は東京やサンフランシスコと変わらない。

中国経済は沿岸部に沿った都市の成長が著しく、内陸部ほど成長の恩恵に浴していないとの説が多く、そんなものかな、との認識を持っていた。

湖北省への視察日程を雲南省の委員会が肩代わりしてくれ、植林とは無縁の雲南省の麗江、昆明を訪れてから広西チワン族自治区に入る。

上海で乗り換え武漢に飛ぶ予定が、各地で大雨、洪水、土砂崩れが発生している山間部へ行くことが難しいので湖北省での視察は中止と決まり、予定変更を余儀なくされ上海に一泊。

湖北省への視察日程を雲南省の委員会が肩代わりしてくれ、植林とは無縁の雲南省の麗江、昆明を訪れてから広西チワン族自治区に入る。

上海で乗り換え武漢に飛ぶ予定が、各地で大雨、洪水、土砂崩れが発生している山間部へ行くことが難しいので湖北省での視察は中止と決まり、予定変更を余儀なくされ上海に一泊。

中国経済は沿岸部に沿った都市の成長が著しく、内陸部ほど成長の恩恵に浴していないとの説が多く、そんなものかな、との認識を持っていた。



平成19年 アモイ市翔安区

植林現場を見晴らせる公園に建立した記念碑。後ろの記念植樹の太さを下の写真と比べて欲しい

柳州には自動車工場もあり、郊外には工業団地が開発され、拡大を続け、高速道路が何本も作られている。満足にシャワーの水も出ず、堅いベッドで寒さに震え、持っている衣類を全部着込んで一夜をしのいだ、アパートか兵舎のようなホテルに宿泊した経験を持つ者が、同じ町で高層、冷暖房完備、バス、トイレ、シャワー、エレベーター、電子カードの鍵付きの部屋から夜景を眺めては何回「ここは中国なんだ」と自分自身に言い聞かせなければならなかったことか。



平成28年視察時アモイ市翔安区

立派に育った記念植樹の木々に囲まれた記念碑。公園には人々が憩い、この記念碑の碑文も有効だ

今回の旅では湖北省の視察はキャンセルされたので、広西チワン族自治区の来賓市、鹿寨県、福建省の厦門には大いに期待が持たれた。

今回の旅では湖北省の視察はキャンセルされたので、広西チワン族自治区の来賓市、鹿寨県、福建省の厦門には大いに期待が持たれた。

今回の旅では湖北省の視察はキャンセルされたので、広西チワン族自治区の来賓市、鹿寨県、福建省の厦門には大いに期待が持たれた。

今回の旅では湖北省の視察はキャンセルされたので、広西チワン族自治区の来賓市、鹿寨県、福建省の厦門には大いに期待が持たれた。

今回の旅では湖北省の視察はキャンセルされたので、広西チワン族自治区の来賓市、鹿寨県、福建省の厦門には大いに期待が持たれた。

今回の旅では湖北省の視察はキャンセルされたので、広西チワン族自治区の来賓市、鹿寨県、福建省の厦門には大いに期待が持たれた。

中国植林 視察の旅

日本友愛協会最高顧問 鶴巻 克雄

こんなところで植林した記憶は全くない。山道から急坂を五〇m程登ったところに、黒ずみ汚れた石の記念碑がひっそり建っている。友愛の文字とともに派遣者全員の氏名、二〇〇六年二月十九日と確かに刻まれていました。持っていた紙や布で記念碑の汚れを拭いながら何故か涙が止りませんでした。こんな深い森の中、誰も二度とこの記念碑を見ることはない、そんなことを思うと、なんと

地球の緑は平和のシンボルであり、人の心を癒し、命を繋ぐ愛の象徴です。帰路、車窓から緑の山々を振り返り、思わず祈りました。

分け入っても分け入っても青い山 山頭火
以上、植林視察感想の一端とします。

水を湛えた貯水池と緑に覆われた植林現場。現場に立つと、空気が違うと感じられる

二〇〇一年から十七年間に二十八回の回を重ねてきた植林事業の成果を視察する旅に参加した。

私は二十八回のうち五、六回しか参加しておらず、最後に参加した植樹からでも十年は過ぎているだろう。渡された日程表には湖北省の武穴、シキ県、広西

苔むして文字の朱も薄くなった記念碑。それでも道路脇にあるため、ハッキリと見ることができる

チワン族自治区の柳州市、来賓県、鹿寨県、福建省の厦門市などの自分が参加した植林地の名前があったので、どこか、この手で植樹した苗木が太木に育った光景に巡り会えるかもしれないとの期待を抱いての旅であった。

上海で乗り換え武漢に飛ぶ予定が、各地で大雨、洪水、土砂崩れが発生している山間部へ行くことが難しいので湖北省での視察は中止と決まり、予定変更を余儀なくされ上海に一泊。

湖北省への視察日程を雲南省の委員会が肩代わりしてくれ、植林とは無縁の雲南省の麗江、昆明を訪れてから広西チワン族自治区に入る。

中国経済は沿岸部に沿った都市の成長が著しく、内陸部ほど成長の恩恵に浴していないとの説が多く、そんなものかな、との認識を持っていた。

再訪した昆明、柳州、厦門の街は周囲の岩山や川の流に昔の面影は残しているものの、まったく別の国の街にきたようだ。街中は、道路が広がり、舗装され、高層ビル、高級マンションが立ち並び、ショッピングセンターには有名ブランドの各店、三々四階には各種のレストランが入っていて客が大勢入っている風景は東京やサンフランシスコと変わらない。

これは中国なんだ」と自分自身に言い聞かせなければならなかったことか。

植林事業の記念として植林地には必ず中国、全青連―省委員会―市委員会と日本友愛協会との協力で植林された旨を記載された（裏面には友愛から参加した者の氏名が書かれていることもある）記念碑が建てられ、記念式典の際に除幕式が行われた。

過去にも何回か既植林地を視察した。その際には三、四キロメートルほど離れた所から、あの山からこの山までが植林されたところだとの説明をされ、記念碑までは距離がありすぎる、道路が崩壊していて近づけない、などなどの理由で一回も記念碑に再会したことがなかった。

今回の旅では湖北省の視察はキャンセルされたので、広西チワン族自治区の来賓市、鹿寨県、福建省の厦門には大いに期待が持たれた。

今回の旅では湖北省の視察はキャンセルされたので、広西チワン族自治区の来賓市、鹿寨県、福建省の厦門には大いに期待が持たれた。

今回の旅では湖北省の視察はキャンセルされたので、広西チワン族自治区の来賓市、鹿寨県、福建省の厦門には大いに期待が持たれた。

Break Through



NISSEY DELICA CORP.

あなたと夢を、ごいっしょに。
PanaHome

ビジネスを拡大させる大空間。

事業向け多層階住宅
VieunoPRO
＜ビューノ・プロ＞

パナホームは工業化住宅で最高※の7階建まで建築可能。独自の「ウルトラNS構法」により、荷重がかかる低層階にも大空間がつけれます。

※2015年12月パナホーム調べ。

パナホーム株式会社 〒560-8543 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番4号 www.panahome.jp





赤土がむき出しになった植林現場。記念碑の周りに木々は見あたらない。土埃のなかで植林した



周りが全て緑に覆われた記念碑付近。左の写真と比較すると、その差は一目瞭然。自然は力強い

十三日午前は来賓市第二期植林地、柳州から南へ高速道で一時間半ほどの距離。インターを降りて五分もしないうちに道路は農業用ダムの湖底に続き通行不能。対岸の小高い丘が植林地との説明にうなずき、遠望するばかり。

午後、来賓市第二期植林地へ、市街地を抜け十分ほどの地点でバスは停まる。橋が落ちて工事中。

二、三キロメートル先の

山一帯が植林地で「中日友好」と植林で書いたところは山の向こう側との説明がつくり。

記念碑は本当に現存するのだろうか？

十年ほど前、新疆ウイグル自治区のウルムチからクチャ、を経て楼蘭、敦煌に旅した時のことが思い出された。タクラマカン砂漠の中に毎年、その位置が変わる「幻の湖」といわれたロプノール湖の跡に無数の石

のかけらを見た。それらの石の
は、この地に到達
の文字が書かれて
の記念としての碑
人々が協力して埒
念碑とは意味が違
ら、とは思いますが
う再会することが
のは既に破壊され
設地に案内するこ
ないのでは？との
じさえてきた。

とがあらに記念した。旅中の日記のなかの「のだか」も、この出来ない出来事によって建物が出来たことを感念を感じた。

二〇〇五年に初めて訪問したときから十三年も校長を務めているヨウ先生との再会に感激。

午後、鹿寨県の植林地へ。市のはずれの橋のたもとから植林当時から植林地を管理しているというYさんが乗り込む。

四十度を超す猛暑の中、バスの泊まったところから三十メートル、五十メートル

道もないところを、下草で腕に切り傷を作りながら登って記念碑を確認、周囲に植林し成長したユーカリ（樹高十五〜二十メートル、太さ七十〜八十センチ）に満面の笑顔で抱きつく川手、羽中田両氏。記念碑と再会できてよかった。感無量。

記念碑は何のために作るの
だろう。

何かの事業を記念して作
成され、後人にその事業の

知らしめるために作成するものである。そのためには人の目に触れるところには作ってこそ意味があるはずなのに道路から離れ、道もなく、藪に覆われ人目に触れないような場所（植林時にはどこからでも見渡せる場所ではあったが）では意味が薄れてしまうのではないか。

後日、厦門の翔安区、同安区でよく整備された公園のような場所にいつでも人の目に触れる場所に設置されていた記念碑を見てからの感想。

十年目の再訪は、高齢者が視察に訪れたことへの称賛の声が聞かれたものの、浦島太郎のような心境の旅となった。

部科学大臣賞

鹿寨小学校の記念植樹も立派に育っていた。余校長先生の変わらぬ笑顔が嬉しい



後日、厦門の翔安区、同安区でよく整備された公園のような場所にいつでも人の目に触れる場所に設置されていた記念碑を見てからの感想。

十年目の再訪は、高齢者が視察に訪れたことへの称賛の声が聞かれたものの、浦島太郎のような心境の旅となった。

友愛図書室に『ドラえ

鹿寨小學校訪問

小学校に到着すると、花束を持った子供達が迎えてくれた。鶴巻顧問も、思わず相好が崩れる



新築校舎に移動した「友愛図書室」。内容も充実し、立派な図書室としてこちらも成長していた



第十四回平成二十八年度文部科学大臣賞

けん玉ペインティングコンテスト表彰式開催

新しくなったサンシャイン噴水広場のオーロラビジョンが活躍

八月二十一日(日)恒例となった「けん玉ペインティングコンテスト」の表彰式が、池袋サンシャイン噴水広場で開催された。

とのこと。制服姿で表彰式に臨んだ才佳さんは、賞状を授与した川手常務理事と、はにかみながら写真に納まってくれた。

日したとのことだった。第十四回と回を重ね、国際的にまで発展したこのコンテストに拍手とエールを贈りたい。

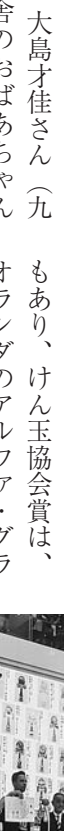
三千七百に及ぶ応募の中から選ばれた二〇点が受賞対象となった。

作品は玉虫の微妙な輝きも表現されており、見事なものだった。

オランダから授賞式に参加したアルファ・グラフさんは、けん玉協会賞の荣誉に輝いた

日本友愛協会賞を受賞したのは、大島才佳さん（九歳）、田舎のおばあちゃんに見せて貰った玉虫の美しさに感動し、作品に描いた

今年度は海外からの応募もあり、けん玉協会賞は、オランダのアルファ・グラフさんが受賞。グラフさんは、授賞式参加のために来



賞状を手には川手常務理事と可愛い笑顔で写真に納まる大島才佳さん。これからも絵を描き続けると

本人の作品が印刷されている賞状。色をお見せできないのが残念だが、美しい玉虫が描かれている



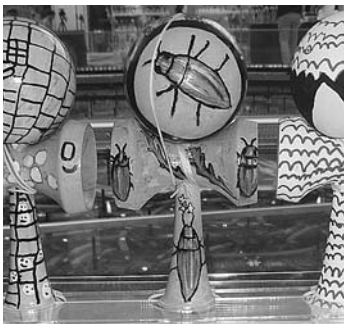
賞状

友協會賞

大島才佳殿

あなたは公益社団法人日本けん玉協会主催
スポーツ庁後援の第十四回けん玉
バインティングコンテストにおいて優秀な
成績を収められましたのでここにこれを
賞します

平成二十八年八月二十一日



友愛 ほんだな

故事に学ぶ Fraternity

今月号は二冊の独創的な本をご紹介します！

岩崎充孝著『故事に学ぶ』
ロゴス刊 季刊誌『フラタニティ』

普段、表現の手段としてお世話になっている「故事成句」だが、そのいわれや背景の物語など、詳しく知る機会が少ない。まして、その故事成句が使われた場面を想像することはおおよさないだろう。
本書は、よくある故事成

句の解説にとどまらず、その成立時の物語を、随筆風にあるいはオムニバス物語風に伝えてくれている。加えて、近年ではどのような場面が、それにあたるのかを例を上げ興味深く説いている。

例えば蒋介石の対日戦勝利放送の中に見る「以德報怨」などを取りあげ、臨場感溢れる言葉で綴っている。大人の絵本的な楽しみが見いだせる一冊である。

鳩山由紀夫理事長は「友愛」の理念を紐解くと中国



著者：岩崎充孝
発行：明徳出版社
電話：03-3660-4011
体裁：B6版 100頁
価格：千五百円（税別） 並製本

の墨子の言葉「自分を愛するように他人を愛せ」にたどり着く、と述べているが、その墨子も本書に登場する。

読書好きの方は言うまでもなく、故事成句に興味のある方、新しい言葉との出会いを楽しみたい方に、お薦めの一冊である。

.....

季刊『フラタニティ』は、今年二月にロゴスから創刊された。編集長は村岡到氏で、弁護士・澤藤統一郎氏や明治大学の西川伸一教授など七人の編集委員で編集されている。

「友愛」を貫くことを目指し、様々な切り口の「友愛」が掲載されている。

今号には、連載記事「友愛を受け継ぐ人々」で鳩山由紀夫理事長のインタビュー記事も掲載されており、

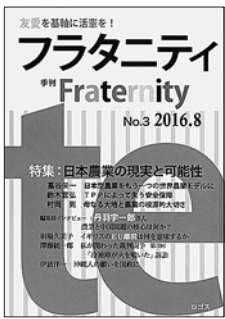
多面的な方法で友愛を取り上げていることが分かる。

「小さな雑誌ですが、大きな夢を抱いています。」と創刊から謳っており、今後の活動が期待される。

表紙のデザインがユニークで、創刊号が「Fr」第二号は「a」第三号となる今号は「te」と、順に「Fraternity」を構成していく仕組みだ。

自由な発想の自由で発言できる雑誌であるということが伝わってくる。

購読希望の方は、直接発行元ロゴスに！



発行：ロゴス
電話：03-5840-8525
体裁：B5版 68頁
価格：六〇〇円（税別）
年間購読可 詳しくはロゴスまで

毎年のごあいさつ

茨城県下妻市 外山 茂登子

さわやかな風に揺れながら、緑の芝生の中から、百合の花が今年も私たちをお迎えしてくださいました。ペランダに立って、青い空を仰ぎながら「毎日の忙しさを忘れられて幸せだなあー」と思っ

「茨城の筑波山の近くです。夏になると必ず、大好きな友愛山荘に来るのです」とお返事しました。こんな気軽な出会いも、友愛山荘なればこそその出来事でしょう。

その方（藤森さん）とは、夕食も席がお隣同士でしたので、お話ししながら楽しくお食事をしました。心のこもったご馳走に、皆さん感激です。

「明鏡止水」の額の近くに、邦夫先生のお写真が飾

られてありましたので、手を合わせていると「ゆっくりしてってください」と、おっしゃってくださいました。

もともとと日本のために生きていていただきかったのですが、とても残念です。

静かに山荘の夜が過ぎると、皆さんとお別れの朝です。また来年も友愛山荘でお会いしましょうと言葉を交わしあい、スタッフの皆様にも送られて山荘を後にしました。

清潔感溢れる館内、トイレに活けられたさりげない一輪の花、気遣いが行き届



テラスからおしゃべりを楽しむ。写真手前外山茂登子さん、写真奥藤森洵子さん

トピック……友愛山荘二題

軽井沢友愛山荘に、また一つ見所が増えた。

左の写真にある武市斎孝先生から作品「仲秋の名月」をご寄贈いただいた。

武市先生は、月と桜をテーマに、活動が続けて来られた画家で、日本画の技術を活かした洋画の鮮やかさが際立つ作品が特徴だ。

軽井沢の個展を期に、友愛山荘をご利用いただき、山荘を訪れた鳩山理事長に、是非と作品をご寄贈く

「中秋の名月」を手記に撮影。見事な作品が友愛山荘に。写真右端が武市斎孝先生



友愛山荘テラスで、ひとしきり絵についてのおしゃべりを。忙中閑あり、優雅な時間が流れる



ださった。

テラスで作品を鑑賞しながら解説などを伺い、穏やかに流れる時間の中で、寄贈の話が進み、秋の月を描いた作品が友愛山荘の入り口を飾る事となった。山荘にいらした折には、是非こちらもご鑑賞ください。

恒例 井口ゼミ合宿

毎年ご利用いただいている青山学院大学の井口ゼミの学生さん達が、今年も山荘に集結。元氣、朗らか、団結力と、いつもながらの若さを謳歌している姿に、友愛山荘も活気づく。

鳩山理事長到着の際は、花東でお迎えするなど、元氣闊達な様子は、毎年変わらない、井口ゼミの伝統色なのだろう。

全員集合しての記念撮影も賑やかなこと。この写真から、若いエネルギーを感じてください。

毎年友愛山荘で合宿を実施。青山学院大学井口ゼミの皆さん（前列右から三人目井口典夫教授）



機関紙『友愛』原稿募集

機関紙『友愛』に皆様のご投稿をお待ちいたしております。内容は、ボランティア活動の報告、地域の名物の紹介、季節のお便り等々、何でも結構です。ご自慢の写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。

締切り：特に設けません。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いいたします。

要領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。

写真：紙焼き（カラー・白黒）・デジカメデータどちらでも。

送り先：（財）日本友愛青年協会事務局 宛

時事川柳 服部迪夫 作

・英国離脱 EUを瞬時に襲う離脱劇
・六輔・八大コンビ 6・8のコンビが逝って唄う歌
・黒田投手 カーブへの愛が詰まった二〇〇勝
・戦争と平和 リオの動対岸に広島は静
・これが五輪 メダリスト生みの苦しみ知
・男子全階級メダル 監督の一直線が実を結び
・手に汗握る心理戦 卓球の奥深さまで享受する
・雨のセレモニ― 感動のバトンをつなぐリオ
東京

短編集後記

◆オリピックは感動の連続でした。

選手の気合がTVの画面から伝わり、一瞬一瞬に心がときめき、競技の醍醐味を満喫しました。スポーツは愛と美がベースです。より速く、より高く、より強く

の目標も美しさが伴い、はじめて感動となるのです。選手の命と肉体の限界に挑む姿は、人々の心に強烈な印象となり、元氣と勇気を与えてくれました。

選手の皆さん有難う。東京大会に期待します。（K）

◆過日帰りのバスで、突然若い女性達が、小さな悲鳴と共に後部座席から前に移動して来ました。何かと思

ってみると、最後部座席の上にカナブンが。男性諸氏の中には、カナブンだとの声も。ゴキブリでもあるまいに、そんなに嫌わなくても……。一つ飛びして床に着地、更に騒ぎを大きくしたカナブンをポケットに入

れ、バスを降りてから雑木林でさよならしました。

けん玉ペインティングコンテストで友愛賞を受賞した才佳ちゃんが描いたのは玉虫。法隆寺の玉虫厨子の話をすると「知ってる！ 見に行った」と顔を輝かせての返事。おばあちゃんから聞き、両親に見たいとせがんだそうで、素晴らしい教育だと感心しました。自然と触れ合うという体験の違いでしょうか、邦夫先生がおっしゃってた山川草木

悉皆成仏の心を、忘れて欲しくないものです。（も）